25期主題
…主イエスのまなざしと出会う…
神さまに、隣人に、
そして社会に仕える

「SDGs(エスディージーズ)の理解を通して」

Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標

全国と繋がる女性会連盟・女性会は社会の一員としての繋がりを大切にしながら、さらに互いを知り理解を深める歩みを進めています。今期私たちはシリーズで SDGs＝持続可能な開発目標を通して、今迄の活動とこれからの活動を新たな視点からも捉え直す取り組みをご紹介しています。第166号ではSDGsの17の目標のNo.12,14,15「つくる責任 つかう責任」「海・陸の豊かさを守ろう」を取り上げます。

17 の持続可能な開発目標から、ご一緒に考えましょう

1 貧困をなくそう
2 飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

12−つくる責任 つかう責任
14・15−海の豊かさ・陸の豊かさを守ろう

▪女性会の取り組み情報などをお寄せください。
連絡先:広報担当
Tel/Fax:095-800-2577
携帯:080-1782-5665
メール:toranekobunko@lib.bbiq.jp

−『生き物と環境は、全て繋がっている』−

☞目標12「つくる責任(生産者)つかう責任(最終消費者)」、「サプライチェーン:供給連鎖(あらゆる人々を巻き込む)」へ目を向けること。

▶「多大な食品ロスの発生」世界の食料の3分の1が捨てられています⇨現在 途上国は貧困や飢餓が深刻な課題です。一方で、日本の食品ロスは年間646万トン、世界全体では13億トンにのぼります。(※次号へ継続)

☞目標14・15「海の豊かさ・陸の豊かさを守ろう」

青い惑星と呼ばれる地球の海洋や土壌の環境汚染が深刻化しています。

▶海の問題は海洋ゴミによる汚染、化学物質の流出、海の酸性化、魚の減少(珊瑚/貝類/海藻/海洋生物へのダメージ)などが挙げられ、海洋ゴミの65%である年間800万トンのプラスチックゴミがこのまま放置され続けると2050年には魚の量を上回ると考えられています。

▶国家間の過剰な経済活動・資源の乱獲や利権争いが地域紛争/戦争や人権侵害への火種ともなり得ます。

▶海の酸性化は地球温暖化、海面上昇や気候変動を招き農作物の不作・食糧危機へ繋がることから、「海の問題と陸の問題」とは密接な関係で結ばれていると言えるでしょう。

▶▶マイバッグ、マイボトル、ペットボトルのリサイクル、エコラベル(MSC認証マーク:漁獲量を遵守)付き商品購入など毎日の小さな心掛けも大切です。

▶陸の問題は森林破壊(土地の乱開発と過剰な製品開発)、陸上生態系の崩壊(作物栽培や畜産への土地の転用・動植物の自然生息地の破壊)、砂漠化(森林伐採の土地流出、不適切な灌漑)、土壌劣化(化学肥料・農薬の大量投入、大型農機具の導入)が脅威となっています。

▶世界で生物全体の29%、約3万5,765種以上が絶滅の恐れがある「絶滅危惧種(2020年時点)」とされています。

▶▶計画的な商品購入、ゴミの減量化、資源の再利用・有効活用を心掛ける取り組みが大切です。また、多様な生き物への理解と保護活動も急務です。

▶毎日の暮らしから5Rを:資源の再利用・有効活用の確実な実践を。⇨ **リユース:Reuse**(再利用) ▪ **リデュース:Reduce**(減らす) ▪ **リサイクル:Recycle** ▪ **リフューズ:Refuse**(断る) ▪ **リペア:Repair**(修理する)。　−K.Y.−

−感謝献金/支援先−

ご報告「共に生きる」集い　代表 松澤員子(京都教会)

「共に生きる」集いでは、2019年11月、バングラデシュ ダッカの現地事務所を視察訪問の際、LWF世界奉仕部門が現地の支援打ち切りを決めたことを知りました。(本来、LWF世界奉仕部門から現地の会議日程が届くはずでしたが)その会議でLWFの奉仕部門はバングラデシュ北部の大都市ディナジプルにRDRSの立派な5階建の事務棟、会議室棟、ホテル(宿泊施設7階建)などを建設、その運営/経営による利益で、従来の支援活動を続けていくという合意のもと、現在も支援活動を続けています。

私たち「共に生きる」集いは、皆様から寄せられた支援金はダッカへ送金させていただきました。一度ダッカのRDRS事務局を訪問し、活動報告を受けたいと願いながら、パンデミックにより、未だ役割を果たせていません。ダッカの事務局から3年前に小学校課程5年を終了した生徒たち全員が卒業試験に合格したことを知らせてくれました。最後にもう一度現地を訪問し、ご支援いただいた皆様にご報告とお礼をと、思っていながら今日にいたっています。いただきました支援金は全部現地に送り届けています。来年には学校で学んでいる生徒たちが5年生になり、全国一斉の小学校卒業試験を受けるはずです。その報告を待って活動を締めくくりたいと思っています。ご理解の程、お願い申し上げます。

「小さな事からこつこつと」

金高美江子（栄光教会）

栄光教会は焼津市・藤枝市・島田市の教会員・住民が多く集います。昨年度、藤枝礼拝堂女性会ではSDGｓについて話し合いました。日本国内では、ゴミは燃えるものとプラスチック類で分別、危険物も非常に細かく分別回収し、再生されています。女性会の皆さんは普段から分別していますが、自宅では野菜の皮でおかずの金平を作り、庭に野菜屑を入れた容器で肥料を作ります。アサリやシジミの殻を細かくし、蜜柑や卵の殻を乾燥させ肥料にします。米を研いだ水は庭に撒き、川の汚染を防ぎます。小さな事からこつこつ取り組んでいます。　−東海教区女性会 −

「ジェンダーギャップから」

神庭靖子（飯田教会）

東教区女性会でのSDGsに関わる取り組みは、やはりジェンダーギャップのテーマでしょうか。夫婦が「主人」「家内」と呼び合う時代に成り立っていた「女性会」の活動は、男女が対等なパートナーとして協働していく時代へと急速に社会が変わる中、組織の改革なしには存続が危ぶまれる事態となっています。まずは現状を受け入れる意識改革と次世代との繋がりが必要と考え、会報その他で働きかけています。　−東教区女性会 −

絵本をとおして「つくる責任・つかう責任」を考える

廣瀬 美由紀（長崎教会）

『『いろのかけらのしま』イ・ミョンエ　作・絵
生田 美保 訳 / ポプラ社

＊タイトルを見たら夢のある絵本と思うかもしれません。そう思って読み進めていくと愕然とします。川を流れて海に流れ着いた“いろのかけら”、嵐で一気に海に押し寄せてきた“いろのかけら”。海に漂う“いろのかけら”と無邪気に遊んでいるように見える海鳥たち。中には「いろのかけら」を餌と間違えて食べて傷つく鳥もいます。

“いろのかけら”の正体はプラスチックです。海に流出してできたプラスチックごみが集まって島のようになっているのです。韓国で出版されたこの絵本の原題は『プラスチックのしま』。絵本に出てくるプラスチックの島は既に世界中に存在しています。

プラスチックの大量生産が始まったのは1950年頃。海に流れ込んでしまったプラスチックごみは今もすべて現存すると考えられていて、その量は2億トンを超えるそうです。プラスチックが5ミリ以下の小さな破片になったマイクロプラスチックは、私たちが食べる魚や塩などからも見つかっています。日本近海には世界平均の27倍のマイクロプラスチックが漂っていてホットスポットとなっているのです。マイクロプラスチックにはダイオキシンのような環境ホルモンが含まれているため危険性が指摘されています。日本は一人当たりのプラスチック容器や包装の廃棄量が世界で2番目に多い国です。プラスチックは身の回りに溢れています。日本はプラスチックごみの6割を燃やして処理しています。すべてがリサイクルされているわけではありません。日本でも2020年からレジ袋が有料化され、2020年4月から使い捨てプラスチックの規制が始まりました。レジ袋に関しては、環境省によると有料化前に比べて流通量が半減していて効果があがっていることがわかります。

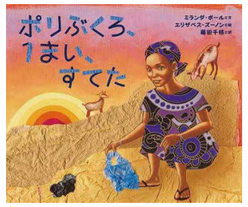
リサイクルより利用そのものを減らすことが大事。どうしたらプラごみを減らせるのか、一人ひとりが考えて実行しないと、プラスチックの島が増えて取り返しのつかないことになるかもしれません。

『地球のために今日から始めるエコ　シフト15』
箕輪弥生/文化出版局

＊私が子どもだった昭和40年代、お豆腐屋さんの車がやってくるとボウルをもってお豆腐を買いに行ったのを覚えています。卵も近所の農家にかごを持って買いに行っていました。ラップはまだ出回っていなかったので、ラップなしで食品を保存するのが当り前でした。生活を見直してプラスチックをできるだけ使わずに暮らしてみませんか？他にも工夫次第で地球に負荷をかけない暮らしができるはずです。

『ポリぶくろ、1まい、すてた』　ミランダ・ポール 作
エリザベス・ズーノン 絵　藤田千枝 訳/さ・え・ら書房

＊アフリカのガンビアで実際にあった話です。アイサトという女の人が何気なく道端に捨てた１枚のポリ袋。ポリ袋は普及するにつれどんどん捨てられたくさんの問題を引き起こします。大事な家畜のヤギが食べて死んでしまったり、ポリ袋が原因で雨水がたまって蚊が大量発生して病気が蔓延したり･･･。アイサトはポリ袋を洗って乾かして細く切りきれいに編んでサイフやカバンをつくって売り出します。他の女性たちもアイサトに共感して活動は広がっていきました。問題意識をそのままにせず、実際に行動に移すことの大切さを教えられます。



『すてきで偉大な女性たちが地球を守った』
ケイト・バンクハースト 作　橋本あゆみ 訳/化学同人

＊ガンビアのアイサト・シーセイのように地球や生き物を守るために行動を起こした13人と一組の女性たちが紹介されています。「もったいない」で有名なワンガリ・マータイも。知ることから行動へつながっていくといいですね。